



Title	福井工業大学デザインスタジオ
Author(s)	川島, 洋一
Citation	デザイン理論. 2011, 56, p. 108-109
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/53507">https://doi.org/10.18910/53507</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 福井工業大学デザインスタジオ

川島洋一／福井工業大学



プロダクトデザインスタジオ

2009年4月に福井工業大学に新設されたデザイン学科のための実習スタジオおよび教員用スタジオである。既存校舎の7階と8階の大部分を改修した。7階は「基礎デザイン実習室」「設計スタジオ」「暗室」「住環境デザインスタジオ」「住環境デザイン実習準備室」などから構成され、「住環境デザインスタジオ」内に6つの教員用スタジオ（研究室）を配置した。8階は「プロダクトデザインスタジオ」と「プロダクトデザイン実習室」から構成され、「プロダクトデザインスタジオ」内に4つの教員用スタジオを配置した。設計・監理は川島と川島研究室の大学院生（西村覚匡、西一生、齊藤俊道）が共同で担当した。

### 作品概要

作品名称：福井工業大学 デザインスタジオ

主要用途：教育施設（実習室・研究室）

所在地：福井県福井市学園3-6-1

設計監理：川島洋一＋福井工業大学大学院

川島研究室（担当：西村覚匡、  
西一生、齊藤俊道）

施工：村中建設株式会社  
（担当：石田篤士）

床面積：780.56㎡（7階）  
473.25㎡（8階改修部分）

設計期間：2008年5月～7月

施工期間：2008年8月～9月

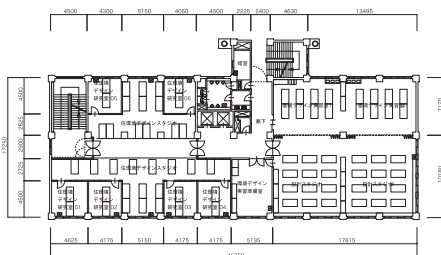


住環境デザインスタジオ

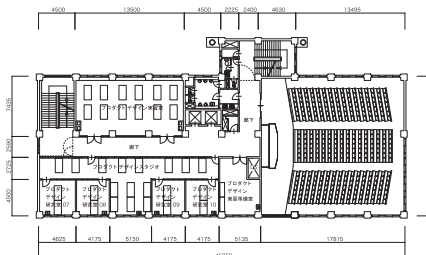
学生の制作スペースがある大部屋の中に教員用スタジオを配置し、それぞれの仕事をしていても、相互のコミュニケーションを自然にはかかることができる親密な空間を意図した。また、必要な場合には一体感を持って教育や作品制作の作業ができるよう配慮した。その

ためガラスを多用して透明性を確保した。これにより利用者の意識が自分のいる部屋の中のみならず、ガラスを隔てた広範囲な領域に波及することを意図しており、発表者が提唱する「多層時間モデル※」による時間性を備えた空間の実現を目標とした。

※建築の利用者が現前の時間だけでなく、過去や他者の時間をも重ね合わせることで獲得できる時間モデルのこと。



7階平面図



8階平面図



サイン



プロダクトデザインスタジオ



設計スタジオ